

# 歷史教育

# 歴史科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂(告示) → 『社会科』うち「日本史」は必履修、「世界史A」「世界史B」いずれかを必履修

- ・「日本史」…日本文化の流れを政治や社会との関係において考察
- ・「世界史A」…世界史の大きな流れを理解
- ・「世界史B」…政治、経済、文化の関連について考察

昭和45年改訂(告示) → 『社会科』うち「地理A」「地理B」「日本史」「世界史」から2科目必履修

- ・「日本史」…日本文化を時代背景、歴史の流れから考察、国民としての自覚、身近な資料の活用
- ・「世界史」…世界の流れを各文化圏別に学習、世界史における日本の位置、日本人としての自覚

昭和53年改訂(告示) → 『社会科』うち「日本史」「世界史」は選択科目

- ・「日本史」…日本の文化と当時の社会との関連について考察、地方文化の学習
- ・「世界史」…現代世界形成の歴史的過程の理解、文化圏学習

平成元年改訂(告示) → 「世界史A」「世界史B」から1科目「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・地理歴史教育の専門性・系統性を重視し教科『地理歴史』として独立、国際化の進展
- ・「世界史A」…近現代史、「世界史B」…世界史の大きな流れや枠組みの理解、文化の多様性
- ・「日本史A」…近現代史、「日本史B」…世界史的視野に立って総合的に理解

平成11年改訂(告示) → 「世界史A」「世界史B」から1科目「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・「世界史A」…地理的条件と我が国の歴史、「世界史B」…現代世界の諸地域の特質と文化の多様性
- ・「日本史A」…国際関係と地理的条件、「日本史B」…適切な主題を設定して行う学習

平成21年改訂(告示) → 「世界史A」「世界史B」から1科目「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・「世界史A」…人類の諸課題を探究、「世界史B」…地理的条件や日本史との関連、歴史的思考力
- ・「日本史A」…主題学習の充実、「日本史B」…主題学習の充実、伝統文化、歴史的思考力を育成

## 生徒及び教師等の課題

### ①科目履修の状況

【平成27年度使用教科書採択状況(文科省調べ)】 世界史A・B1,369,457冊, 日本史A・B976,189冊, 地理A・B691,218冊  
〔参考値;高等学校生徒数 3,334,019人(特別支援学校除く)〕

### ②近現代史の学習の定着状況は, 他の指導内容に比べて低い傾向

【平成17年度教育課程実施状況調査】

(例) 世界史B「(5) 地球世界の形成」では, 設定通過率を上回る 31.3%・同程度 31.3%・下回る 37.5%

(例) 日本史B「(6) 両世界大戦期の日本と世界」では, 設定通過率を上回る0.0%・同程度 12.5%・下回る 87.5%

### ③学習活動の工夫に課題

【平成17年度教育課程実施状況調査】～教師質問紙における次の質問に対する回答～

「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか。」

「肯定的回答」合計 (世界史B :12.8%、日本史B 14.0%), 「否定的回答」合計(世界史B :87.0%、日本史B :80.8%)

「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか。」

「肯定的回答」合計 (世界史B :4.9%、日本史B 7.7%), 「否定的回答」合計(世界史B :95.1%、日本史B :87.0%)

# 歴史教育に関する現状と課題について①

H25高等学校日本史及び地理の履修状況(文科省調べ)

		全生徒数	A履修者	B履修者	A・B両方	履修者	非履修者
日本史	普通科	62,396人	23.5%	50.2%	8.8%	64.9%	35.1%
	専門学科	26,159人	41.8%	5.6%	0.0%	47.4%	52.6%
	総合学科	6,712人	45.9%	29.6%	5.8%	69.7%	30.3%
	合計	95,267人	30.1%	36.5%	6.2%	60.4%	39.6%
地理	普通科	62,396人	24.7%	32.8%	6.6%	50.9%	49.1%
	専門学科	26,159人	58.7%	2.7%	0.0%	61.4%	38.6%
	総合学科	6,712人	30.8%	10.5%	1.6%	39.8%	60.2%
	合計	95,267人	34.4%	23.0%	4.4%	53.0%	47.0%

\* 在籍する第3学年生を対象として、入学時から現時までの各科目の履修状況について集計した。

H27年度使用 高等学校用  
地理歴史教科用図書需要数

科目	(冊)	(%)	
世界史A	917,624	82.6	123.3
世界史B	451,833	40.7	
日本史A	436,665	39.3	87.8
日本史B	539,524	48.5	
地理A	415,269	37.4	62.2
地理B	275,949	24.8	

\* この需要数は平成26年9月中旬までに教育委員会から報告された生徒用及び教師用の必要見込み冊数であり、当該科目の履修者数とは一致しない(文科省調べ)。

\* 割合は〔科目の受容数／1学年の在学者数の平均〕で算出。

\* 平成26年5月1日時点 高等学校在学者数 3,334,019人

H25高等学校地理歴史科の開設状況

(%)

	普通科			専門学科			総合学科
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	
世界史A	28.0	42.8	13.6	19.1	47.7	28.1	96.0
世界史B	5.7	55.0	59.2	0.8	5.9	7.3	73.7
日本史A	5.5	35.3	18.3	3.6	23.2	29.7	86.2
日本史B	1.0	65.1	76.7	0.3	6.9	9.2	86.5
地理A	15.1	26.0	14.1	31.2	22.5	19.0	85.2
地理B	3.2	46.5	57.7	0.6	5.9	7.3	67.3

(平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査)

H27大学入試センター試験受験状況

科目	受験者数 (人)	受験割合 (%)
世界史A	1,378	0.4
世界史B	84,119	21.5
日本史A	2,410	0.6
日本史B	155,359	39.5
地理A	1,844	0.5
地理B	146,922	37.5
地歴合計	392,032	—

\* 最大2科目の受験が可能のため、各科目の受験者数の合計は地歴受験者の合計と一致しない。

## H17年教育課程実施状況調査報告

- ◎ 世界史や日本史の学習は大切だという回答は増加
- ◎ 原始・古代などの学習成果は比較的高い
- ◆ 近現代史の学習の定着状況は、他の指導内容に比べて低い傾向が見られる
- ◆ 学習内容の重点化と基本的な事柄の理解が十分ではない
- ◆ 調べたり発表したり課題解決したりする主体的な学習が十分には行われていない
- ◆ 記述式問題で無解答率の高いものが見られる

H17教育課程実施状況調査高校地理歴史 生徒質問紙調査／教師質問紙調査の結果から

調査	質問内容	世界史B		日本史B	
		肯定的な回答	否定的な回答	肯定的な回答	否定的な回答
生徒 質問紙	世界史／日本史の勉強は大切だ (下段はH15調査の結果)	53.0%	40.1%	60.3%	33.7%
		51.6%	39.9%	55.0%	36.9%
教師 質問紙	課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか	12.8%	87.0%	14.0%	80.8%
	調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか	4.9%	95.1%	7.7%	87.0%
	観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っていますか	8.3%	86.8%	4.3%	95.5%

## 歴史教育に関する現状と課題について③

### 内容項目別にみたペーパーテスト調査結果【世界史B】

内 容	問題数	設定通過率を上回る	設定通過率と同程度	設定通過率を下回る
(1) 世界史への扉	5	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)
(2) 諸地域世界の形成	13	7 (53.8%)	5 (38.5%)	1 ( 7.7%)
(3) 諸地域世界の交流と再編	13	6 (46.2%)	4 (30.8%)	3 (23.1%)
(4) 諸地域世界の結合と変容	20	4 (20.0%)	11 (55.0%)	5 (25.0%)
(5) 地球世界の形成	16	5 (31.3%)	5 (31.3%)	6 (37.5%)
合 計	67	24 (35.8%)	26 (38.8%)	17 (25.4%)

### 内容項目別にみたペーパーテスト調査結果【日本史B】

内 容	問題数	設定通過率を上回る	設定通過率と同程度	設定通過率を下回る
(1) 歴史の考察	8	4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)
(2) 原始・古代の社会・文化と東アジア	10	5 (50.0%)	5 (50.0%)	0 ( 0.0%)
(3) 中世の社会・文化と東アジア	8	4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)
(4) 近世の社会・文化と国際関係	10	5 (50.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)
(5) 近代日本の形成とアジア	10	5 (50.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)
(6) 両世界大戦期の日本と世界	8	0 ( 0.0%)	1 (12.5%)	7 (87.5%)
(7) 第二次世界大戦後の日本と世界	6	3 (50.0%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)
合 計	60	26 (43.3%)	18 (30.0%)	16 (26.7%)

### H20中央教育審議会答申 (44頁)

「なお、地理歴史に関する総合的な科目の設置については、具体的な教育内容の在り方等について今後更に検討する必要がある。」

# 国際的な状況の分析について ①

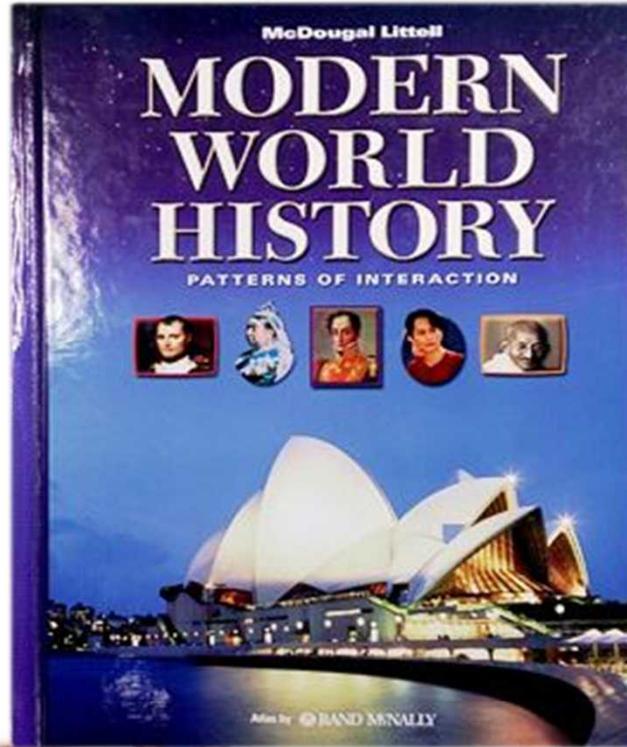
## 世界の主な国々と日本における歴史教育に関わる教育課程の比較

	日本	合衆国	英国	ドイツ	フランス
～参考資料～	2009年高等学校学習指導要領地歴	1996年ニューヨーク州(New York Learning ST)他	2013年ナショナル・カリキュラム(K3)他	2014年バーデン=ヴュルテンベルク州他	2005/2006年度までの教育課程
①動向	○地歴各科目の関連付けを重視し、諸資料を活用した探究活動を充実	○全米教育組織による全米基準を参考に各州が策定	○歴史学習の成果を、実社会で役立つ学びへと転移させるために歴史学の手法を導入、時系列をおさえた学習を重視	○2015新レアプラン発表予定：コンピテンシーの獲得重視、共通コンピテンシーと校種毎の段階的評価基準の明確化へ	
②取り扱う主要な概念、キーワード	○歴史的思考力の育成 ○国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質の育成	○6つの概念で構成（文化の伝播、移動・移住、多地域帝国、宗教システム、交易・貿易、衝突）、諸地域世界の相互作用を取り扱う	○歴史学の概念（継続と変化、原因と結果、類似、差異と重要性）の理解 ○概念の活用 ○探究方法の理解 ○見方の獲得他	○疑問のコンピテンシー ○判断のコンピテンシー ○方法のコンピテンシー(州立アカデミーHP)	○7つの能力・資質・技能を「共通基礎」におく (1)伝語 (2)1つ以上の現代外国語 (3)数学の基礎原理 (4)科学的・人文的文化 (5)情報通信技術 (6)社会的市民的資質 (7)自律と自主的精神への到達
③学習活動等の特徴	○作業的・体験的な学習活動を取り入れ、言語活動の充実を図る	○多様な時間・空間から、自他の地域を相対化 ○政治経済学習と連携 ○将来に向けた実社会に役立つ資質の育成 ○過去の事象の歴史評価を問う	○地域・国家・ヨーロッパ・世界レベルでの歴史を扱い、多様性を強調 ○主題設定し、概観学習・テーマ学習・深化学習を組合せる	○教師が問いを発し、諸資料を活用して、探究的に授業を構成 ○日常的にICTを歴史の授業で活用	○知識教授中心の伝統的な教育課程に立脚 ○歴史は自国史・他国史の区分なし(仏史中心) ○地理は初等を除き逆同心円(グローバルな視点導入)

諸外国の状況を分析すると、①グローバル社会に求められる資質・能力に着目し、②主要な概念を中心にカリキュラムを構成し、③歴史の探究手法を習得させ、歴史的思考力を培うことを重視する傾向があることが見て取れる。

# アメリカ合衆国

項目	ニューヨーク州
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法的拘束力のある教育課程基準はない。全米教育組織による全米基準を参考に州が策定</li> <li>○NYスタンダード：「合衆国と州の歴史」「世界史」「地理」「経済」「公民・市民性及び政府」</li> <li>○コアカリキュラム：スタンダードを具体化。歴史は学年7-8, 9-10, 11の3区分に設定</li> </ul>
<p><b>歴史の構成 授業の在り方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○7-8学年「合衆国と州史」, 9-10学年「世界史と地理」, 最終11学年に、政治学習と交えた「合衆国史と政府」</li> <li>○写真, 絵画, 口承資料, 伝記などを使い、過去を解釈することを要求 調査活動奨励。社会的な議論も生徒に資料・証拠収集・解釈を行うことを要求</li> </ul>
<p><b>育成すべき資質・ 能力</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○(New York Learning Standard)1：「合衆国とニューヨークの歴史」、2：「世界史」〔主要な思想、時代、テーマ、発展、転換期〕について理解したことを使用し、多様な観点から、歴史の大観を検討するために必要な知的技能を活用できること、5：〔公民・市民性・政府〕を扱う</li> </ul>
<p><b>特徴</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時系列的配置</li> <li>○多様な時間・空間から、自他の地域を相対的に見つめる</li> <li>○政治経済学習とつなげて将来に向けた実社会に役立つ資質育成へ</li> <li>○過去の事象に対して自分はどうか考えるかという歴史評価を問う項目が多い</li> </ul>



**PATTERNS OF INTERACTION**

**2. Forming and Supporting Opinions**  
 Hokusai's print of the wave, shown above, remains very popular today. Why do you think this image appeals to modern people?

**▲ Under the Wave of**  
 Katsushika Hokusai was one of the most famous of all Japanese print artists. His well-known print 'The Great Wave off Kanagawa' is taken from his well-known series 'Thirty-Six Views of Mount Fuji'. Mount Fuji was considered sacred in the background of this print.

**Connect to Today**

1. **Making Inferences** What personal qualities and skills would an artist need to be good at making woodblock prints?  
 See Skillbuilder Handbook, page 210.

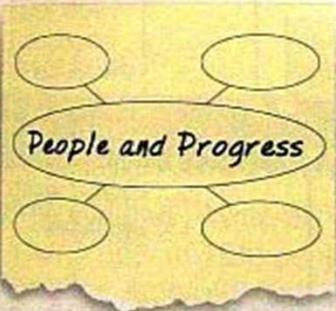
(出典)  
 MODERN WORLD HISTORY  
 McDougal Littell

**TERMS & NAMES** 1. For each term or name, write a sentence explaining its significance.

- assembly line
- Charles Darwin
- theory of evolution
- radioactivity
- psychology
- mass culture

**USING YOUR NOTES**

2. Which breakthrough helped people the most? Why?



**MAIN IDEAS**

3. What effect did the assembly line have on production costs?
4. How did Joseph Lister improve the survival rate of his patients?
5. What effect did the spread of public education have on culture?

**CRITICAL THINKING & WRITING**

6. **COMPARING AND CONTRASTING** How is the mass culture that rose at the end of the 19th century similar to mass culture today? How is it different? Explain your response.
7. **RECOGNIZING EFFECTS** How did the germ theory change living conditions in Europe and the United States?
8. **ANALYZING CAUSES** What changes led to the rise of mass culture around 1900?
9. **WRITING ACTIVITY** **SCIENCE AND TECHNOLOGY** Write a two-paragraph **expository essay** in which you discuss whether advances in science and technology have had a largely positive or negative impact on society.

# Skillbuilder Handbook

Refer to the Skillbuilder Handbook when you need help in answering Main Idea questions or questions in Section Assessments and Chapter Assessments. In addition, the handbook will help you answer questions about maps, charts, and graphs.

## SECTION 1: Reading Critically

1.1	Determining Main Ideas	R2
1.2	Following Chronological Order	R3
1.3	Clarifying; Summarizing	R4
1.4	Identifying Problems and Solutions	R5
1.5	Analyzing Causes and Recognizing Effects	R6
1.6	Comparing and Contrasting	R7
1.7	Distinguishing Fact from Opinion	R8

## SECTION 2: Higher-Order Critical Thinking

2.1	Categorizing	R9
2.2	Making Inferences	R10
2.3	Drawing Conclusions	R11
2.4	Developing Historical Perspective	R12
2.5	Formulating Historical Questions	R13
2.6	Making Predictions	R14
2.7	Hypothesizing	R15
2.8	Analyzing Motives	R16
2.9	Analyzing Issues	R17
2.10	Analyzing Bias	R18
2.11	Evaluating Decisions and Courses of Action	R19
2.12	Forming and Supporting Opinions	R20
2.13	Synthesizing	R21

## SECTION 3: Exploring Evidence: Print, Visual, Technology Sources

3.1	Analyzing Primary and Secondary Sources	R22
3.2	Visual, Audio, and Multimedia Sources	R23
3.3	Using the Internet	R24
3.4	Interpreting Maps	R25
3.5	Interpreting Charts	R27
3.6	Interpreting Graphs	R28
3.7	Analyzing Political Cartoons	R29

## SECTION 4: Creating Presentations

4.1	Writing for Social Studies	R30
4.2	Creating a Map	R31
4.3	Creating Charts and Graphs	R32
4.4	Creating and Using a Database	R33
4.5	Creating a Model	R34
4.6	Creating/Interpreting a Research Outline	R35
4.7	Creating Oral Presentations	R36
4.8	Creating Written Presentations	R37

(出典)

MODERN WORLD HISTORY

McDougal Littell

# イギリス

項目	イングランド
<p>○1991年NC実施、法的拘束力をもつ、検定基準なし、教科書は自由採択・貸与制</p>	
<p><b>歴史の構成 授業の在り方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○KS 3 (前期中等) まで歴史必修、KS4は選択制</li> <li>○地域・国家・ヨーロッパ・世界のレベルでの歴史を扱い、多様性を強調</li> <li>○グローバル化を受け、地域住民・英国国民・EU市民・世界市民として生きる資質形成のためのシティズンシップの涵養</li> <li>○2008版で「鍵となる概念」「鍵となる方法」に分け具体化</li> <li>○学習する中で「鍵となる概念」を理解</li> <li>○歴史を「流れ」でなく「主題(トピック)」から捉え、概観学習・テーマ学習・深化学習を組合せる</li> <li>○タイムライン(時系列)をおさえた学習を重視</li> </ul>
<p><b>育成すべき資質・能力 (一部)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史学の概念(継続と変化、原因と結果、類似、差異と重要性)の理解</li> <li>○歴史学の概念の活用(関連付け、比較、傾向分析、問いの作成、自分の説明の構築 *事実の説明や分析も含む)</li> <li>○歴史学の探究方法の理解(過去に対する論点や解釈の違いの由来、証拠の厳密な適用)</li> <li>○歴史学の見方の獲得(習得中の知識を他の文脈に適用して、地方・地域・国家・国際的な歴史の動きと結びつけて理解 *歴史学習の成果を、実社会で役立つ学びへと転移させるためには歴史学の手法の導入が必要である)</li> </ul>
<p><b>特徴</b></p>	<p>歴史的思考力を明確化、GCSEに連動する教育課程</p>

# ドイツ

ベルリン州(B)	項目	バーデン=ヴュルテンベルク州(BW)
<p>○KMK (常設文部大臣会議) が各州共通の共通基準を設定、法的拘束力がある            ○各州 (16州) がCS策定、各州の検定基準あり、教科書は貸与制</p>		
<p>前期中等：前近現代            (時系列的配置)            後期中等：現在の理解、未来への方針、個人の歴史意識の涵養 近現代史：(時系列的配置)</p>	<p><b>歴史の構成            授業の在り方</b></p>	<p>前期中等：前近現代通史 (時系列的配置)            後期中等(上級G)：近現代史、反省的思考、歴史の解釈</p>
<p>○方法コンピテンシー            ○解釈コンピテンシー            ○分析コンピテンシー            ○判断と方向付けのコンピテンシー            ○ナラティブ・コンピテンシー</p>	<p><b>育成すべき資質・能力</b></p>	<p>州立アカデミー(LFP)のwebでは、            ○疑問のコンピテンシー            ○判断のコンピテンシー            ○方法のコンピテンシー</p> <p>*ドイツ他州に比較するとこれまでは資質・能力は強調されていなかったが、州は、2015に新方針を打ち出すと表明した。</p>
<p>○BW州は2015新レアプラン発表予定：コンピテンシーの獲得を重視し、共通コンピテンシーと校種毎に段階的な評価基準を明確化する方向へ向かう可能性がある。            ○BW州では、歴史で育成すべき資質や能力の中味が必ずしも明確でなく、現段階では、個々の教師の判断に委ねられているようである。</p>		

# フランス

- 学習指導要領は省令として告示、詳細な指導指針は訓令
- 教師向け・一般向け手引き書が刊行、教科の内容・指導方法・評価の明示
- 学習指導要領に基づき教科書作成、検定基準なし

<p style="text-align: center;"><b>歴史の構成</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○〔対応科目〕初等：共に生きる、世界を発見する、歴史・地理、公民、集団生活 前中等：歴史・地理・公民 後中等：歴史・地理、公民・法制・社会</li> <li>○目的と目標、各学年の目標、内容、教授法、評価法、内容関連の資料、参考文献リスト *精粗あり</li> <li>○1-2：簡単な仏史/身近な地域/自分・集団・学校 3-5：原始～古代の仏中心の歴史/世界～ヨーロッパ～仏～世界化時代の仏地理/学校・コミュニティ・仏・ヨーロッパ・仏語圏・世界市民 6-10：原始～現代の仏中心の歴史/世界～ヨーロッパ～仏の地理 11-12：コースにより古代～現代または近現代史</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>育成すべき資質・能力</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○7つの能力・資質・技能を「共通基礎」とする</li> <li>(1) 仏語 (2) 1つ以上の現代外国語 (3) 数学の要基礎原理</li> <li>(4) 科学的・人文的文化 (5) 情報通信技術 (6) 社会的市民的資質</li> <li>(7) 自律と自主的精神への到達</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>特徴</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民としての資質育成、社会への参入を保障する教育</li> <li>○知識教授中心の伝統的な教育課程に立脚</li> <li>○歴史は自国史・他国史の区分なし(仏史中心)</li> <li>○地理は初等を除き逆同心円(グローバルな視点導入) (2007国研)</li> </ul>

# 歴史科目の今後の在り方について（検討素案）

## 現行歴史系A科目

## 課題

## 資質・能力

## 新科目のイメージ

### 世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

### 関連付け

### 日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

①世界史や日本史の学習は大切だと考える生徒は増加。一方、近現代史の学習の定着状況が、他の指導内容に比べて低い傾向。

②世界史か日本史かの二者択一ではなく、グローバルな視野で現代世界とそこでの日本の過去と現在、未来を考える歴史認識を培うことが必要との指摘。

③調べたことを発表させる活動や課題解決的な学習を取り入れた授業等が十分に行われていない。

○自国のこと、グローバルなことを、横断的・相互的にとらえる力

○現代社会の形成過程を理解し、その諸課題を考察する力

○持続可能な社会作りに参画する態度

○国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚

自国のこと、グローバルなことが影響しあったり、つながったりする歴史の諸相を学ぶ科目

- 日本の動向と世界の動きを関連付けて捉える。
- 現代的な課題につながる時代区分における、歴史の転換点等を捉えた学習を中心とする
- 歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、歴史の考察を促す概念を重視する
- 歴史の中に「問い」を見出し、資料に基づいて考察し、互いの考えを交流するなど、歴史の学び方を身に付ける

### <参考>

現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。  
(各時代の特色を捉える学習他)

# 指導方法の変革を支援する方策について

## ○ 資料の活用：デジタルアーカイブの活用

- ・国立公文書館デジタルアーカイブ：公文書、重要文化財
- ・国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センター  
平成26年4月現在、公開数は約190万件・2,810万画像の目録

## ○ 研修の事例：協同的な取組の推進 自治体との連携による協調学習の授業づくり



大学発教育支援コンソーシアムの活動(東京大学)

- 過去5年間の取組の蓄積
- 知識構成型ジグソー法を用いた協調学習の授業づくりに関する成果を発信し全国で共有
- 小中高向け出張授業 講習会・見学会企画
- 小中高向け教材等、ウェブリソース

<http://coref.u-tokyo.ac.jp/>

## ○ 教材の事例：地方・日本・地域・世界を結ぶ教材の開発



### 12 銀が結ぶ世界と日本

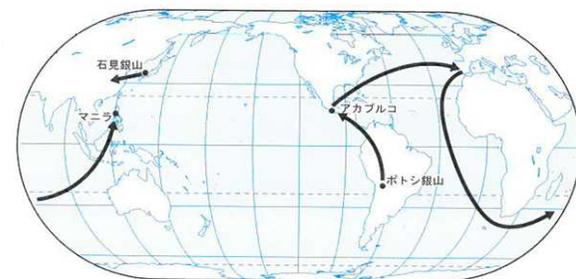
### 4 兵庫とのつながり ～銀の馬車道～

世界	日本	石見・生野銀山
1545 ポトシ銀山開発		
1549	キリスト教伝来	
1557 ポルトガル、マカオに居住権を得る		
1565 明、浙江省で一条鞭法施行		
1567		生野銀山で日本最大の鉱脈発見
1568 オランダ独立戦争始まる(～1609)		
ポルトガル人作成の『日本図』に「銀鉱山王国」の記載		
1571 マニラ、スペインのフィリピン経営の拠点となる		
1602 オランダ、東インド会社設立		石見銀山、年4千貫(15t)の銀を産出する
1603	江戸幕府成立	江戸幕府、生野銀山を幕府直轄領とする
1713 清、盛世誕生入丁を実施		
1717 広島省で地丁銀制実施		
1757 清、対ヨーロッパ貿易を広州に限定		
1868	明治維新	生野銀山、日本初の官営鉱山となる
1874		生野・飾磨間の馬車道新設

※フェルナン＝ヴァス＝ドラード作

### 考えてみよう

- (1) ポトシ銀山の銀は、アカプルコからヨーロッパ、中国に運ばれた。アカプルコからマニラ、マカオを通過して中国に運ばれた銀のルートを図中の矢印で書いてみよう。
- (2) 馬車道(銀の馬車道)は何のために開かれたのか、考えてみよう。
- (3) 16～17世紀において、銀が世界に与えた影響について考えてみよう。



# 地理教育

# 地理科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→『社会』うち「地理A」「地理B」いずれかを必履修

- ・人間活動の理知的考察を中心、自然の取り扱いの明確化、世界の現勢を地域に即して理解
- ・「地理A」…基本的事項を経済との関連に留意して扱う、
- ・「地理B」…基本的事項をやや深く扱う

昭和45年改訂（告示）→『社会』うち「地理A」「地理B」「日本史」「世界史」から2科目必履修

- ・日本や世界の動向を地理的に考察、世界における我が国の地位の認識、国民としての自覚
- ・「地理A」…系統地理中心
- ・「地理B」…世界地誌中心

昭和53年改訂（告示）→『社会』うち「地理」は選択科目

- ・現代世界についての地理的な認識を深める
- ・「地理」…系統地理中心の「地理A」と世界の地域的な学習を中心とする「地理B」を統合

平成元年改訂（告示）→「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・地理歴史教育の専門性・系統性を重視し、教科『地理歴史』として独立
- ・「地理A」…生活や文化に関わる地域的特色と諸地域の共通課題に重点
- ・「地理B」…地理的諸条件と人間の営みを地域的観点からとらえ、世界と日本を比較・関連的に学習

平成11年改訂（告示）→「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・「地理A」…地図の読図描図や地域調査など作業的・体験的な学習を重視、歴史的背景に留意し追究
- ・「地理B」…地理的な見方考え方を重視、現代世界の地理的認識と関連付けて体系的に学習

平成21年改訂（告示）→「地理A」「地理B」「日本史A」「日本史B」から1科目必履修

- ・「地理A」…地理的技能の習得、現代世界の諸課題や持続可能な開発等を歴史的背景を踏まえ考察
- ・「地理B」…地理的事象の分布や要因を考察、知識・概念や地理的技能を活用し考察

## 生徒等の課題

### ①最低限の地理的知識をもたずに高校を卒業する生徒の増加

【2014年度使用教科書採択状況】 世界史A・B1,382,886冊, 日本史A・B983,408冊, 地理A・B691,746冊  
〔参考値; 高等学校生徒数 3,532,876人(特別支援学校除く)〕  
【日本地理学会による大学生地理認識調査(2014)】～各国名について地図中からその位置を適切に選択した者の割合～  
フィンランド52.4%(履修者66.7%, 格差14.3%), スイス46.1%(格差15.4%), ベトナム43.5%(格差15.4%)

### ②地球環境の危機や防災に関する教育の必要性

### ③地理的思考力や地理情報システム(GIS)など地図・地理空間情報を利活用できるスキルの育成が重要

〔以上, 日本学術会議(2011)〕

### ④海外や異文化一般への関心の後退〔同(2007)〕

## 教師等の課題

### 学習活動の工夫に課題〔同(2007)〕

【平成17年度教育課程実施状況調査】～教師質問紙における次の質問に対する回答～  
「観察や調査・見学, 体験を積極的に取り入れた授業を行っていますか。」  
行っている方だ(1.5%), どちらかといえば行っている方だ(5.0%), 「否定的回答」合計(87.8%)  
「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っていますか。」  
行っている方だ(0.0%), どちらかといえば行っている方だ(0.6%), 「否定的回答」合計(94.2%)

## 各国の地理教育に大きな影響を与える「国際地理学連合」の動向

### 「国際地理学連合 (IGU)」とは？

1922年に創設した、世界各国が加盟している地理学の代表的な国際組織。日本では、日本学術会議のIGU分科会がIGU日本委員会を兼ねている。4年に一度、大会が開かれ、2013年8月の京都大会では、4日間で1,256の発表が行われ、国内688人、海外743人(61か国・地域)が参加した。  
出典:大会HPなど

### 「地理教育国際憲章」の制定

1992年に、組織内の地理教育委員会(CGЕ)で起草されIGUとして制定された、地理教育振興のためのガイドライン。この中で、地理学研究の中心的概念を、「位置と分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」と規定した。また、すでにこの中で「SDが地理教育にとって重要な概念となることを明記している」。  
出典:中山修一「地理教育国際憲章」(1993), 同「持続発展教育(ESD)としての地理教育」(2012)

### 「ルツェルン宣言」

2007年、スイスのルツェルンにおいてIGU-CGEが行ったESDとしての地理教育推進に関わる宣言(正式名:「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言」)。

この宣言では、ESDとしての地理教育の最終目標を、「持続可能な社会の構築をめざす価値観・意識の変革とそのために行動する能力を備えた人間の育成であり、ESDとしての地理教育は社会変革を指向するものである」とした。

また、宣言は、①ESDへの地理学の貢献、②SDのための地理教育カリキュラム開発の基準、③地理学におけるESDでの情報通信技術(ICT)の重要性、の3章から構成されており、この中で「持続可能な開発を実行する地理的能力」を明示。

出典:中山修一(2012)

### 「持続可能な開発を実行する地理的能力」

⇒次のことに関する地理的知識と地理的理解

①地球の主な自然のシステム、②地球の社会・経済システム、③空間概念

⇒地理的技能

コミュニケーション、思考、ローカルから世界までの範囲で地理的なトピックスを探求する実践的な社会的スキルを用いること

⇒態度と価値観

「世界人権宣言」に基づくローカル、地域、国家のおよび国際的な課題と問題の解決を模索することに対する献身的努力

出典:大西 宏治「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言(全訳)」(2008)

## 国際的な状況の分析について②

### 世界の主な国々と日本における地理教育に関わる教育課程の比較

	日本	合衆国	英国	ドイツ	フランス	中国	韓国
～参照資料～	高等学校学習指導要領地歴(2009)	地理ナショナルスタンダード(1994)	ナショナル・カリキュラム(2007)	地理教育スタンダード(2006)	IBディプロマプログラム地理(2014)	地理課程標準(2001)	国家教育課程(2009)
①資質・能力	地理的認識 地理的な見方や考え方 地理的な技能 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質	概念的知識 地理的技能 地理の見方(空間的見方・生態的見方)	汎用的な方法知を重視(2014年版では、教科固有の系統的知識も重視) ESDの核となる教科という位置付け、市民的資質形成	ESDの影響も含まれるが、行動志向、価値観の育成、判断力の育成、判断力の発達、コミュニケーション、自律的学習が重視されるようになってきている。	国際理解を深め地球的課題に関する関心、自らの責任の認識、世界市民としての共同責任を認識、個人的コミットメントをもつための価値観や態度	知識と技能の伝授を強調し、能力育成、情感・態度・価値観などの面の教育軽視から転換し、生徒の全人的な発展を重視	地図などを含む多様な地理情報の活用とともに、地域の問題解決能力や空間情報処理能力を向上するための活動が重視
②取り扱う主要な概念、キーワード	地理的な認識、空間的な規則性・傾向性、地理的事象の成立背景や要因、一般的共通性と地方的特殊性、地域の関係性、地域の変容	空間的認識 場所と地域 自然的システム 人文的システム 環境と社会 地理の応用	場所 空間 スケール 場所の相互依存 自然・人文的プロセス 環境の相互作用と持続可能な開発 文化理解と多様性	専門科学 空間オリエンテーション 知識獲得/方法 コミュニケーション 評価/評定 行動	過渡期にある人口富と開発の格差 環境の質と持続可能性のパターン 資源消費のパターン フィールドワーク	中国の初等・中等教育においては、地球規模における環境との調和及び持続的発展が、学習内容の中心となっている。	世界化と地域理解、世界の多様な自然環境、世界の多様な地域の文化的多様性、変化する世界の人口と都市、経済活動の世界化、葛藤と共存の世界
③学習活動等の特徴	地図の読図や作図、景観写真等の読み取り、地理情報システムなどを活用した地理情報の収集・分析、地図を活用した事象説明・解釈・論述・討論	映像教材等が主流となり、地図指導とともにICT活用が活発化している。また、近年はより幅広い環境教育を目指してESDを取り入れる動きがスタートした。	キープロセス ・地理的探究 ・フィールドワークと野外学習 ・地図や画像の読み取り ・地理的コミュニケーション	最近では問題解決学習の手法を取り入れ、社会での実践的な行動力育成。野外調査等の方法の学習、気象データ等の分析や作成、GIS等のコンピュータ利用なども内容化	主要な地球的課題について検討し、様々な規模で実例や詳細なケーススタディを考察(問題提起、ケーススタディ、地図・基礎知識の獲得、高度なケーススタディ)	学習結果ばかりでなく学習過程と学習方法を重視しており、特に体験を通して学ぶことの有効性を強調	学校におけるE-learningが進んでおり、地理教育においてもインターネットの活用が重視され、日常生活の中でのICT活用につながるような方法が講じられている。

諸外国の状況を分析すると、①持続可能な社会を形成するための資質・能力の育成を目指し、②主要な概念を中心にカリキュラムを構成し、③地理的探究に基づく学習や、地理的技能としてのICT活用を重視していることなどが見て取れる。

参考文献等は資料末尾に記載

## イギリス教科書に見られる アクティブラーニング

### 防災

洪水の危険性を減少させるにはどうしたらいいか

洪水の危険性を減少させるに多くの様々な方法があります。下に示した方法は、洪水防止対策案といえます。それは、これらの方法が洪水の発生をとめることを目的としているからです。

現在、多くの人々は、川や洪水の完全な制御は不可能であると思っています。洪水は自然的なことであるから発生するに任せるほかはない、と言われているのです。しかし、長期的に見れば、洪水防止対策案は、対洪水費用を抑制できます。また、水質の改善もできますし、野生動物保護にも役立つ

## 3.7 パート2 GISで決断する。

### GIS

この見開きでは、どこに作業場を移転するか決断するためにGISを活用します。  
サッカー場



## 持続可能な開発

バイパスはどこを通るべきか？

ある場所が車で込み過ぎた（混雑した）場合、交通量をいくぶん減らす目的で、その場所の周りに道を作ることがあります。混雑した場所を避けるために建設される道路をバイパスといいます。なかにはとても長いバイパスもあります。ロンドンぐるっと回るM25は160km（100マイル）以上の距離があります。しかしほとんどのバイパスはこれよりはるかに短いものです。

バイパスを建設するのは簡単なことではありません。お金が必要ですし、適切なルートを計画したり、そのルートの影響を被る人々の間で何度も議論をせねばなりません。これらはどれも大変難しく、長い時間がかかります。

考慮すべき点	Red route	Blue route	Yellow route
最短ルートである			
全ての既成市街地を回避する			
最良の農場を回避する			
険しい坂を回避する			
湿地帯を回避する			
景勝地帯を回避する			
樹林草原を回避する			
必要とする橋が最も少ない			
伐採しなければならない木々が最も少ない			
工場用地に役立つ			
Total			

### 作業

1 図Bをよく見てください。これはキータウンという想像上の場所とその周りの田園地帯を示すものです。

キータウンは、かつては狭い通りと魅力的な中央広場のある、こじんまりとした静かな村でした。しかし今は、賑やかで混雑しており、もはやこの場所を通る全ての交通に対処することができなくなっています。そのため、町の中心部を通る交通量を減らすために、バイパスを建設することが決まりました。

一般的には、「黄色ルート」が選択される。そのわけは、このルートは現在使われない鉄道路線を利用してきて、しかも、糞



イギリス中学校後期(高校1,2年相当)  
(GCSE Geography OCRB)

イギリス教科書中学校前期  
(Key Geography Foundations) 39

イギリス中学校前期(中学1~3年相当)  
(Key Geography Foundations)

# 地理科目の今後の在り方について（検討素案）

現行地理A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

①地理は選択必修で、選択者も世界史、日本史に比べて少ないことから、最低限の地理的技能をもたず高校を卒業する者が多い。

②地球環境の危機や防災に関する教育の必要性、地理的思考力や地理情報システム(GIS)などを利活用できるスキルの育成等が重要であるとの指摘。

③観察や調査・見学、体験を取り入れた授業等が十分に行われていない。

- 地理的な技能  
「実践的な社会的スキルとしてのGIS活用」
- 地理的知識と地理的理解  
「地球規模(グローバル)の自然システム、社会・経済システムの知識と理解」
- 地理的な見方や考え方  
「空間概念を捉える力」
- 態度と価値観  
「地域、国家的及び国際的な課題解決を模索する献身的努力」

(「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」)

持続可能な社会づくりに必須となる地球規模の諸課題や、地域課題を解決する力を育む科目

- 地図や地理情報システムなどの汎用的な地理的技能の育成
- 位置と分布、場所、地域などの概念を捉える地理的な見方や考え方の育成
- グローバルな視点からの地域理解と課題解決的な学習の展開
- 持続可能な社会づくりに関わる資質・能力を育み、以降の地理学習等の基盤を形成

<参考>

- ・中学校の地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

# 指導方法の変革を支援する方策について

## GIS

国土交通省

「小・中・高等学校教員向け 地理情報システム(GIS)研修プログラム」

…WEB上に、研修企画者向けの手引き, 研修資料, 教員向けの手引き, 活用事例, 関連Web サイト等の情報源の紹介  
「『G空間EXPO』におけるエデュケーションプログラム」など

国土地理院

「地理院地図, 電子地形図, 航空写真の提供」「国土地理院『出前講座』」など

日本地図センター

「地理院地図, 電子地形図, 航空写真の提供」「講師派遣」など

など

## グローバル

外務省

「開発教育・国際理解教育ハンドブック」・「開発教育ハンドブック ミレニアム開発目標(MDGs)」  
・基礎データとしての『国・地域』資料 など…いずれもWEB上などで閲覧可能

国際協力機構(JICA)

「JICA地球ひろば」…展示物の見学やその貸出し等も可能

それ以外にも「国際協力出前講座」「国際理解教育セミナー・研修」「教師海外研修」などの講座や,  
「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」「グローバル教育コンクール」といったイベント など

## 防災

本省

「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」平成25年3月発行  
研究開発局地震・防災研究課「地震調査研究本部」による「防災教育支援推進ポータル」

国土交通省

「ハザードマップポータルサイト」全国のハザードマップを検索・閲覧

防災科学技術研究所(NIED)

一般ページに自然災害の基礎知識を学ぶコンテンツと学生向けコンテンツを用意

など

## ESD

本省(ユネスコ国内委員会)

「ESDポータルサイト」の解説やホームページ上での様々な情報提供, ESDストーリーブック  
『ESD QUEST』などのコンテンツ紹介

国立教育政策研究所

「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔中間報告書・最終報告書〕」  
パンフレット「ESDの学習指導要領を構想し展開するために必要な枠組み」

など

# 理数教育

# 数学に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。『数学』各科目：数学Ⅰ、数学ⅡA、数学ⅡB、数学Ⅲ、応用数学

- ・ 数学における基本的な知識の習得と基本的な技能の習熟を図り、それらを的確かつ能率的に活用する能力を伸ばす。

昭和45年改訂（告示）→『数学』うち「数学一般」または「数学Ⅰ」のうち1科目を必履修。（理数科：総合数学は原則必履修。）  
『数学』各科目：数学一般、数学Ⅰ、数学ⅡA、数学ⅡB、数学Ⅲ、応用数学（理数科：総合数学、計算機数学）

- ・ 論理的に考え、統合的、発展的に考察し、処理する能力と態度を育成し、また、社会において数学の果たす役割について理解させる。

昭和53年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。（理数科：理数数学、総合数学は原則必履修。）  
『数学』各科目：数学Ⅰ、数学Ⅱ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計（理数科：理数数学、総合数学）

- ・ 体系的に組み立てていく数学の考え方を通して、事象を数学的に考察し処理する能力を高めるとともに、それらを活用する態度を育てる。

平成元年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱは原則必履修。）  
『数学』各科目：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱ）

- ・ 事象を数学的に考察し処理する能力を高めるとともに数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

平成11年改訂（告示）→『数学』うち「数学基礎」または「数学Ⅰ」のうち1科目を必履修。（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱは原則必履修。）  
『数学』各科目：数学基礎、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C  
（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱ、理数数学探究）

- ・ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

平成21年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱは原則必履修。）  
『数学』各科目：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学活用（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱ、理数数学特論）

- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。

# 理科に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→『理科』うち「物理A」または「物理B」、「化学A」または「化学B」、生物、地学の4科目を必修。  
『理科』各科目：物A、物B、化A、化B、生、地

- ・基礎学力の向上と科学技術教育の充実をめざして、教材を精選し、系統的な学習を目指す。

昭和45年改訂（告示）→『理科』のうち「基礎理科」1科目または「物理I」、「化学I」、「生物I」、「地学I」のうち2科目必修。（理数科：総合物化生地は原則必修。）  
『理科』各科目：基礎理科、物化生地I、物化生地II（理数科：総合物化生地）

- ・「科学技術の高度の発展」に対応することを明示、内容をさらに精選して質的向上を図るとともに「探究の過程を通して、科学の方法を習得させ、創造的な能力を育てる」ことを目標とした。
- ・「科学の方法の習得」を目標とした「基礎理科」を新たに開設。

昭和53年改訂（告示）→「理科I」必修。（理数科：理数理科は必修、理数物化生地のうち、原則2科目以上必修。）  
『理科』各科目：理科I、理科II、物化生地（理数科：理数理科、理数物化生地）

- ・理科I：中学校で削減された内容を担保、高校理科の基礎の定着などをねらいとして開設。
- ・理科II：課題探究を通しての科学の方法の習得をねらいとして開設。
- ・Iを付した科目とIIを付した科目を合わせて、「物理」「化学」「生物」「地学」を開設。

平成元年改訂（告示）→『理科』のうち「綜合理科」、「物理IA」又は「物理IB」、「化学IA」又は「化学IB」、「生物IA」又は「生物IB」及び「地学IA」又は「地学IB」の5区分から2区分にわたって2科目必修。（理数科：理数物化生地のうち、原則3科目以上必修。）  
『理科』各科目：綜合理科、物化生地IA、物化生地IB、物化生地II（理数科：理数物化生地）

- ・綜合理科：理科Iに代わる総合的な理科の科目として開設。
- ・日常生活と関係の深い事物・現象を扱う科目として物理IA、化学IA、生物IA、地学IAを開設。
- ・合計13科目の中から2科目を選択というような、履修科目の多様化。
- ・物化生地II：系統的な学習内容の他に、問題解決能力の育成を図る目的で課題研究を内容の一部とした。

平成11年改訂（告示）→『理科』のうち「理科基礎」、「理科総合A」、「理科総合B」、「物理I」、「化学I」、「生物I」及び「地学I」のうちから2科目必修（「理科基礎」、「理科総合A」及び「理科総合B」のうちから1科目以上を含むものとする。）。（理数科：理数物化生地のうち、原則3科目以上必修。）  
『理科』各科目：理科基礎、理科総合A、理科総合B、物化生地I、物化生地II（理数科：理数物化生地）

- ・理科基礎：科学と人間生活とのかかわりを学習。
- ・理科総合A：エネルギーと物質の成り立ちを中心として、自然を総合的に学習。
- ・理科総合B：生物とそれを取り巻く環境を中心として、自然を総合的に学習。
- ・物化生地I：前回CSの「IBを付した科目」「IIを付した科目」のうち、基本的な内容で構成、探究活動を内容の一部とした。
- ・物化生地II：発展的な内容を学習。また、課題研究を内容の一部として位置付け、課題解決能力を育成。

平成21年改訂（告示）→『理科』のうち「科学と人間生活」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」のうちから2科目（うち1科目は「科学と人間生活」とする。）又は「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」のうちから3科目必修。  
（理数科：課題研究は原則必修、理数物化生地のうち、原則3科目以上必修。）  
『理科』各科目：科学と人間生活、物化生地基礎、物化生地、理科課題研究（理数科：課題研究、理数物化生地）

- ・基礎的な科学的素養を幅広く養う科目として、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を開設。
- ・科学的な見方や考え方を育成するために観察・実験の充実。
- ・科学と人間生活：指導内容と日常生活や社会との関連を重視。
- ・理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。

## 理数教育の現状

①理数系目の学力の状況は、トップレベルにある。

科学リテラシー：OECD諸国中1位、数学的リテラシー：OECD諸国中2位。

【PISA2012(15歳児対象)】

②先進的な理数教育を行う高等学校等をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、支援。  
高校段階から、課題研究などに積極的に取り組み、成果をあげている。(平成27年度指定 203校)

### 成果Ⅰ 生徒の科学技術への興味・関心や姿勢に関する効果

SSHの取組を通して、科学技術に関する学習意欲や未知の事柄に対する興味の向上に加え、自分から取り組む姿勢、真実を探って明らかにしたい気持ちについても向上が見られる。

SSH参加により・・・

- 科学技術に関する興味・関心・意欲が向上したと回答した生徒：66%
- 未知の事柄への興味が向上したと回答した生徒：72%
- 自分から取り組む姿勢が向上したと回答した生徒：62%
- 真実を探って明らかにしたい気持ちが向上したと回答した生徒：64%

【平成25年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

### 成果Ⅱ 生徒の進路に関する効果

SSH卒業生の8割近くが理系の学部を専攻。大学院への進学率は、大学生全体の約4倍、理系の大学生の約2倍。

- SSH卒業生の卒業3年目時点の専攻分野：H20年度卒業生の78.1%、H21年度卒業生の80.6%、H22年度卒業生の79.8%が理系
- H19年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率：SSH校 56.6% (大学生全体 14.9%、理系の大学生 30.4%)
- H20年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率：SSH校 58.1% (大学生全体 13.9%、理系の大学生 28.9%)

【平成23・24・25年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

## 理数教育の課題

①学力の上位層割合は他のトップレベルの国・地域より低い。

②数学に対する不安を感じている生徒の割合は高い。 ③数学を有用と感じている生徒の割合は低い。

①科学的リテラシーレベル5以上の生徒の割合：日本18%、シンガポール23%、上海27%

②数学に対する不安：日本 -0.36、シンガポール -0.16、OECD諸国平均 0.01 (値が大きいほど不安は弱い)

③数学における道具的動機付け：日本 -0.50、シンガポール 0.40、OECD諸国平均 -0.30 (値が大きいほど有用と感じている) 【PISA2012】

## 理数教育に関する現状と課題について②

### 理数教育の課題

科学について学ぶことに興味がある生徒の割合は低い。

科学について学ぶことに興味がある生徒の割合：日本50%、OECD平均63%

【PISA2006】

- ①自然や科学への興味や関心は、日米中韓の中で最低。
- ②「社会に出たら理科は必要なくなる」と回答した割合は、日米中韓で最多。
- ③日本の高校生における、自由研究の経験者の割合は高い。
- ④理科自由研究の実施時期は小学5年生の時期が最多。

①日本：59.5%、米国63.6%、中国79.3%、韓国63.1%

②日本：44.3%、米国22.4%、中国19.2%、韓国30.2%

③日本：54.6%、米国29.3%、中国50.8%、韓国29.4%

④日本：小1で2割、小3で4割強、小5で6割を超えた高い比率。中3で3割弱まで減少、高校に入ると自由研究をほとんど行わなくなっている。

(米国は中学校の時期に理科の自由研究が多く行われ、韓国は小5から高1の間に盛んである。中国は主に中2から高1で自由研究が多く行われている。)

【高校生の科学等に関する意識調査H26】[独立行政法人国立青少年教育振興機構]

- 日本の高校生は、理科の自由研究を経験した割合が4ヶ国中で最も多いにもかかわらず、科学への関心は最低で、理科の学習は社会に出たら役に立たないと考える者も多い。
- 理科の自由研究の実施時期は、日本においては小学校の時期が最も多いが、他の3ヶ国は中2～高1までが多い。

**•高校生において、自主性、主体性のある研究、探究活動が重要。**

# (参考) スーパーサイエンスハイスクールにおける科学的探究学習の例

## 【フロンティアサイエンス I・II・III】



(写真左) 生徒によるディベート形式の発表会の様子(研究テーマ: 金属イオンの沈殿反応を利用した溶液の成分分析)

「フロンティアサイエンス I・II・III」という科目を設けて、〔事前学習→フィールドワーク・講義→探究活動→発表・評価〕を1サイクルとするユニット制で授業を行う。論理的思考力、創造性・独創性、科学的探究力、表現力の育成を図る。

[石川県立七尾高等学校]

### ※SSH(スーパーサイエンスハイスクール)

高等学校を指定し、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校を指定(平成27年度203校指定)。

## 【数理課題研究】

数学・物理分野について、高校で学習する内容を超えた高度な内容の研究に取り組む。研究では身近な現象の中に問題を見つけて数学的モデルの作成を行い、実験でその正しさを検証する。

加えて、研究発表の機会を活かして、プレゼンテーション力の向上にも努める。継続研究する生徒は個人研究に取り組み、学会発表・論文作成を目指す。

課題研究によって、探究力・問題解決能力・創造性を育成するとともに、大学の設備等を利用して実験・研究を行い、進路選択の動機付けもねらいとしている。

[学校法人ノートルダム清心学園清心女子高等学校]

## 【SS数理情報】

数理的な事象を考察・分析するために、数学を基礎として論理的な思考力を育成するとともに、コンピュータを有効に活用し、問題解決を図る能力を養う。

[東京都立科学技術高等学校]

# 理数科目の今後の在り方について（検討素案）

## 普通科の場合

現 行 科 目	数学Ⅲ	数学B	数 学 活 用						理 科 課 題 研 究
	数学Ⅱ	数学A		物理	化学	生物	地学		
	数学Ⅰ			科学と人間生活	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	

- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。
- ・ 理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。先端科学や学際的領域に関する研究なども扱える。
- ・ 課題研究等の活動は生徒の論理的な思考を育成する効果が高いが、あまり開講されていない状況。（1割未満）
- ・ スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）で設定されている「サイエンス探究」等では、数学と理科で育成された能力を統合し、課題の発見・解決に探究的に取り組むことで高い教育効果。

【諮問文】より高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための  
新たな教科・科目の在り方について検討

## 資 質 ・ 能 力

○従来の数学と理科の各教科で求められていた資質・能力を統合した科学的な探究能力の育成を図る

◎専門的な知識と技能の深化，総合化を図り，より高度な思考力，判断力，表現力の育成を図る

○課題に徹底的に向き合い，考え抜いて行動する力の育成を図る

SSHにおける取組み事例なども参考にしつつ、数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目

# 探究テーマの例（案）

## (1) 特定の自然の事物・事象に関する研究

⇒「物理現象の計測方法についての研究」

赤外線センサーを用いた計測装置を製作して物体の運動を解析し、誤差の原因や制度の向上についての研究

⇒「実験条件による化学反応の差異についての研究」

分析装置などを用いて、濃度や温度による硫酸、硝酸の反応性や温度の違いによるアルコールの脱水反応など、実験条件による化学反応の差異についての研究

⇒「生物の生理活性に関する研究」

身の回りの植物や野菜の成分が、他の生物に関してどのような活性があるかを調べ、その成分の性質について研究

⇒「地域における特色ある地学的な事物・事象に関する研究」

段丘、断層、火山、鍾乳洞、集中豪雨、突風などの事象について研究を行い、その概要を把握し、その原因等を研究

## (2) 特定の社会現象に関する研究

⇒「バーコードと国際標準図書番号の研究」

バーコードと国際標準図書番号に付けられているチェックサムと整数の性質との関連や、略号と整数の性質との関連についての研究

⇒「道路などの曲線の研究」

高速道路や鉄道線路、ジェットコースターなどのカーブと曲線の性質との関連についての研究

## (3) 先端科学や学際的領域に関する研究

⇒「ノイズの除去に関する研究」

音や画像データに混入したノイズを除去するために行われる三角関数や積分などを使った処理についての研究

## (4) 自然環境の調査に基づく研究

⇒自然災害に関する研究、環境保全に関する研究

## (5) 科学や数学を発展させた原理・原則に関する研究

⇒代数法的式の解の公式の研究、

微分法における平均値の定理の研究

# 国語教育

# 国語の科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

## 昭和35年改訂（告示）目標

- 1 生活に必要な国語の能力を高め、言語文化に対する理解を深め、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにして、言語生活の向上を図る。
- 2 経験を広め、知識を求め、教養を高めるために、また、思想や感情を人に伝えるために、目的や場に応じて正しく的確に理解し表現する態度や技能を養う。
- 3 ことばのはたらきを理解させ、国語に関する知識を高め、国語に関する関心や自覚を深めて、国語を尊重し、その発展に寄与する態度や習慣を身につけさせる。

## 昭和45年改訂（告示）目標

生活に必要な国語の能力を高め、国語を尊重する態度を育てる。

このため、

- 1 国語によつて的確に理解し表現する能力と態度を養う。
- 2 国語による理解と表現を通して、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにする。
- 3 国語による伝達を効果的にして社会生活を高める能力を伸ばし態度を養う。
- 4 言語文化を享受し創造するための基礎的な能力を伸ばし態度を養う。
- 5 国語に対する認識を深め、言語感覚を豊かにし、国語を愛護してその向上を図る態度を養う。

## 昭和53年改訂（告示）目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身につけさせるとともに、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成元年改訂（告示）目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けさせるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成11年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 平成21年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

# 国語の科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

学習指導要領	領域構成	科目(◎:必履修、○:選択必履修)
昭和35年改訂(告示)	A(聞くこと、話すこと)、(読むこと)、(書くこと) B ことばに関する事項	◎現代国語 ○古典甲 ○古典乙Ⅰ 古典乙Ⅱ
昭和45年改訂(告示)	A 聞くこと、話すこと B 読むこと C 書くこと ことばに関する事項	◎現代国語 ◎古典Ⅰ甲 古典Ⅰ乙 古典Ⅱ
昭和53年改訂(告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 古典
平成元年改訂(告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 現代語 古典Ⅰ 古典Ⅱ 古典講読
平成11年改訂(告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ ○国語総合 現代文 古典 古典講読
平成21年改訂(告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B

## 生徒及び教師等の課題

### ○学習活動の工夫に課題

- ・教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向。
- ・話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調。
- ・高校生の思考力・判断力・表現力に一部課題。
- ・メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等が行われていないという課題。

### ○国語、古典に対する指導

- ・国語の学習、特に古典に対する興味・関心を高める指導に課題。
- ・進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性。

# 国語教育に関する現状と課題について①

※「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」財団法人日本システム開発研究所(平成21年度文部科学省委託調査報告書)より

## ○授業や学習指導において心がけていること(質問項目は一部抜粋)

	高等学校		中学校	
	全体	国語	全体	国語
教科書にあることを丁寧に教える授業	44.8%	52.8%	33.8%	35.9%
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	57.1%	52.8%	50.3%	44.1%
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	6.5%	7.3%	25.9%	34.1%
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	12.2%	9.3%	12.8%	17.7%
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	29.3%	27.5%	45.0%	49.5%
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	34.7%	54.4%	29.2%	48.2%
宿題を定期的に出す授業	16.2%	22.8%	8.9%	9.1%



- ◆教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向。
- ◆話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調。

## 国語教育に関する現状と課題について②

※「特定の課題に関する調査(論理的な思考)調査結果」(国立教育政策研究所、平成25年3月)より

### 国語に関連の深い調査問題における主な課題

- 人文科学に関する文章(国語辞典の記述)を読み、文章の特徴を的確にとらえ、それを基に活用できるかどうか把握する問題においては、文章の記述を基に、辞典の特徴を約7割の生徒がとらえていたのに対し、**文章の内容を評価し、目的に応じて適切に活用することができる生徒は約4割にとどまった。**

### 生徒質問紙の結果

- 論理的な思考力を一般的な表現形式で問う問題については、**7割以上の生徒が解いたことがないと回答しているが、7割以上の生徒がこのような問題を解く力が社会で必要だと回答。**

### 教師質問紙(国語)の結果

- 授業における言語活動を通じた指導の10項目の実施について、**肯定的な回答をした教師の平均は約4割であった。**肯定的な回答が3割に満たなかった項目は、「**文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択して資料にまとめる**」、「**調査したことなどをまとめて報告する**」、「**課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり、報告書や論文にまとめたりする**」の3項目。



◆**高校生の思考力・判断力・表現力の一部に課題。**

◆**メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等が行われていないという課題。**

### 「言語活動の検証改善の成果」について

#### <成果や取組状況>

- 多くの小・中学校で言語活動を意識した活動に取り組んでいる。全国学力・学習状況調査の結果等からは、言語活動の充実が児童生徒の学力の定着に寄与していることが示唆されている。

#### <課題(抜粋)>

- 課題としては、**言語活動についての目的意識や、教科等の学習過程における位置付けが不明確であることや、指導計画等に効果的に位置付けられていないことにより生じている問題**が指摘されている。
  - ・授業や単元の中で明確な意図を持った位置付けがされておらず、単なる話合いにとどまり形骸化していて、画一的な指導方法となっている例。
  - ・目的意識が不明確であったり、単元全体を通じて常に言語活動を行わなければならないと誤解したりしていることにより、言語活動を行うこと自体が目的化してしまっている例。
  - ・発表や討論に重きが置かれる一方、その前段階として、自分の考えを持たせるための論述等の活動や、発表の後に様々な意見や考えを比較・検討してまとめていくことが十分に行われていない例。



◆ 目標と言語活動の整合に課題がある授業が一部にみられる。

## 国語教育に関する現状と課題について④

※「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点(国語)」より

### 国語の勉強について

- 「国語の勉強は大切だ」について、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と肯定的に回答した生徒の合計は86.4%(前回調査では81.9%)であった。一方、「国語の勉強が好きだ」について、肯定的に回答した生徒の合計は47.7%(前回調査では45.2%)にとどまっている。
- **国語の学習に対して生徒の大半が「大切だ」と考えていながら、「好きだ」と感じている生徒はそれと比べて少ないという、前回調査と同様の傾向がみられた。**

### 古典の学習について

- 前回調査でも古典の学習に対する「関心・意欲・態度」の向上が課題として指摘されていたが、生徒質問紙調査をみると、「古文は好きだ」、「漢文は好きだ」に**「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と否定的な回答をした生徒は依然として多い**(今回調査では、古文72.6%、漢文71.2%、前回の調査では、古文74.8%、漢文70.5%)。



◆国語の学習，特に古典に対する興味・関心を高める指導に課題

# 国語教育に関する現状と課題について⑤

※文部科学省「平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」より

## 各科目の開設状況(平成25年度入学生の教育課程)

	普通科				専門学科				総合学科
	1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
国語総合	93.2%	3.5%	2.4%	6.8%	97.8%	50.7%	2.6%	1.7%	100.0%
国語表現	0.1%	8.6%	37.8%	3.3%	0.2%	7.5%	42.6%	1.0%	75.8%
現代文A	0.0%	7.0%	6.4%	1.5%	0.0%	7.4%	31.5%	0.7%	37.0%
現代文B	0.0%	85.7%	88.9%	6.7%	0.1%	43.4%	51.3%	1.4%	88.2%
古典A	0.0%	19.4%	20.7%	2.8%	0.0%	6.7%	8.5%	0.8%	57.2%
古典B	0.0%	74.9%	77.6%	6.6%	0.1%	12.2%	12.4%	0.9%	80.5%

- 共通必修科目「国語総合」は、普通科では9割以上が1年次のみに、専門学科では半数程度が1・2年次に設定。
- 普通科では、2年次以降の選択科目として、「現代文B」「古典B」を開設する学校が多い。「現代文A」は開設する学校が少ない。
- 専門学科では、2年次以降の選択科目として、「現代文B」を開設する学校が多い。3年次においては、普通科と異なり、「古典A」「古典B」よりも、「国語表現」「現代文A」を開設する学校が多い。



◆進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性がある。

## 国語教育に関する現状と課題について⑥

※高校生の国語(古文)に関する意識調査(H23 奈良県内公立高校抽出調査)より

### 国語、古文の勉強、学習について

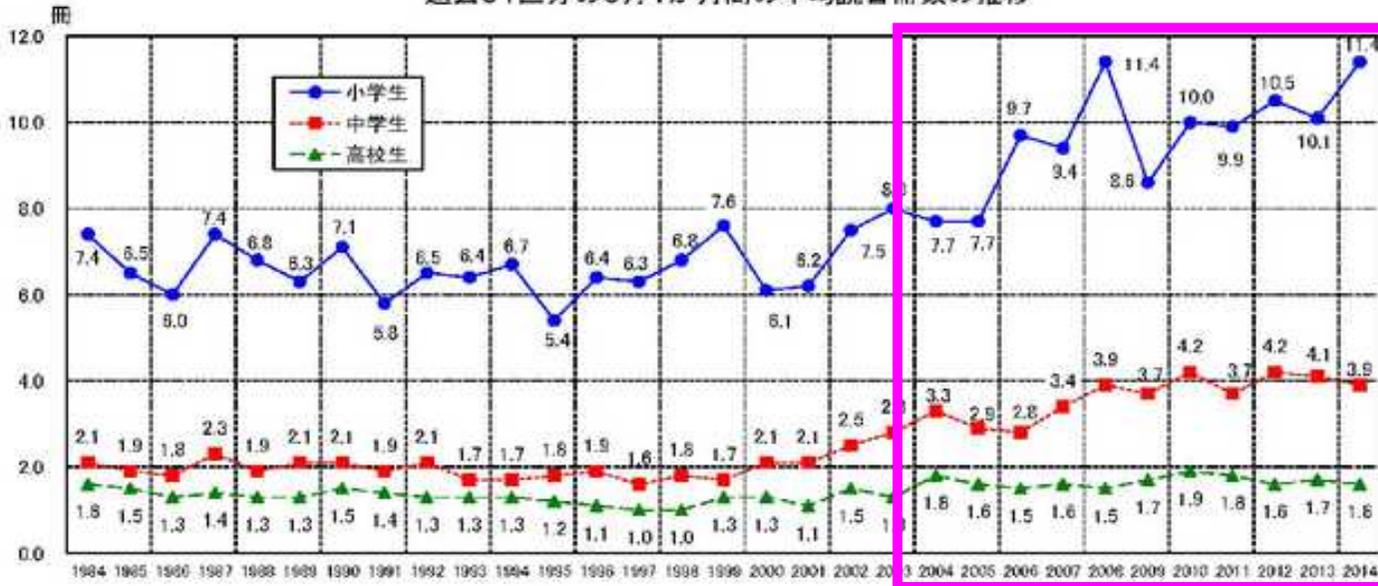
- 「『国語』が好きか」という問いに対して、「好き」又は「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒の割合は57%であった。  
また、「『古文』が好きか」という問いに対して、「好き」又は「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒の割合は31%であった。
- 「『国語』の学習が必要だと思うか」という問いに対して、「必要」又は「どちらかといえば必要」と肯定的に回答した生徒の割合は90%であった。  
また、「『古文』の学習が必要だと思うか」という問いに対して、「必要」又は「どちらかといえば必要」と肯定的に回答した生徒の割合は38%であった。
- 生徒が、古文を不要を考える理由としては、「社会に出ても必要がないから」(48.5%)「昔の言葉なんていまさら関係がないから」(30.3%)の回答で約8割となった。
- 古文の授業において、意欲的に取り組めなかった学習内容としては、「文法(25.9%)」、「古語の意味(17.8%)」という言語事項に関する回答が多かった。

- ◆ 古典(古文)に対する興味・関心とともに、必要性を感じさせる指導にも課題
- ◆ 学習意欲を高めるために、「文法」「古語の意味」等に関する指導の改善の必要性

# 国語教育に関する現状と課題について⑦

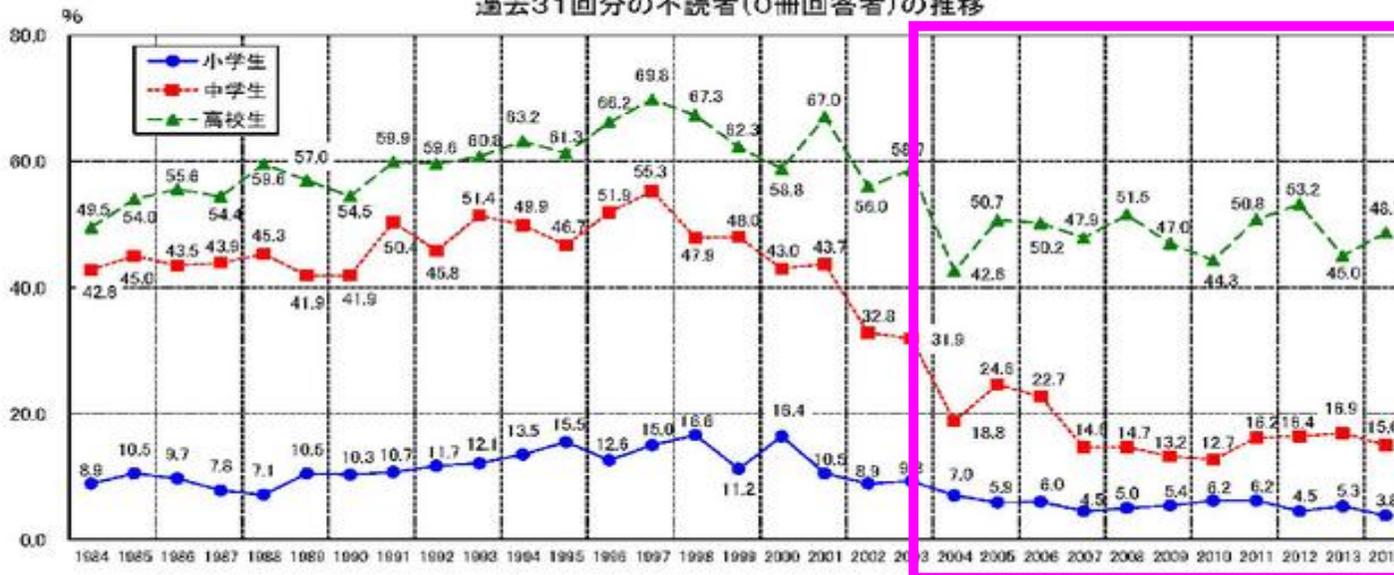
※第60回読書調査より(全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を実施。)

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



- 2014年5月の1か月間の平均読書冊数は、小学生は11.4冊、中学生は3.9冊、高校生は1.6冊になっている。
- 昨年度に比べ、小学生は大きく増加したが、中学生・高校生は減少している。

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



- この調査では、5月の1か月間に読んだ本が0冊の生徒を「不読者」と呼んでおり、今回の調査の結果では、不読者の割合は、小学生は3.8%、中学生は15.0%、高校生は48.7%となっている。
- 昨年度と比べ、小学生・中学生は減少したが、高校生は増加している。

◆小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない。

# 国語科目の今後の在り方について（検討素案）

改善の視点（案）

## [全体的な課題]

- ・他教科等で活用できる汎用的なスキルを育成する必要がある。
- ・依然として、教科書教材に依存した、講義調の伝達型授業が中心となっている。

## [主にコミュニケーション能力に関する課題]

- ・話合いや論述など、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習指導が低調で、生徒のコミュニケーション能力の育成に課題がある。
- ・生徒の論理的な思考力(特に文章の内容を根拠に基づいて評価し、目的に応じて活用する力)に課題がある。
- ・静止画や動画における表現者の意図を解釈する力など、時代に対応したビジュアルリテラシーを育成することが必要。

## [主に言語文化に関する課題]

- ・これまで継承され、実生活の中で形成されてきた言語文化についての深い理解や関心を高める学習に課題がある。(言語文化への興味・関心を高めるA科目の開設率が低い。)
- ・文法や古語など知識・理解の学習に偏る傾向があり、古典への興味・関心を高める学習指導に課題がある。
- ・学習指導が教科書教材の読解に偏る傾向があり、文学的文章の創作等の言語活動が十分行われておらず、想像力・創造力の育成に課題がある。

## 選択科目の在り方

現代文を中心に古文・漢文を含めて扱うなど、総合的な国語の能力を育成すること

論理的な文章(論説文・評論文、小論文等)を読んだり書いたりする力を育むこと

文学的な文章(小説、随筆・随想、脚本等)を読んだり書いたりする力を育むこと

古文・漢文等への理解を深め、言語文化への関心を高めること

## 共通必修科目の在り方

### 実社会・実生活に生きる国語の能力の育成

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった、表現に関わる能力の育成
- ・話合いや論述などの活動の重視
- ・静止画や動画も含む多様な表現の扱い

### 古典を含む我が国の言語文化に関する理解等を深めること

- ・古典に関わる言語文化についての理解と活用
- ・古典以外の文章に関わる言語文化についての理解と活用

検討の方向性（案）

# (参考) 現行の国語の各科目の指導事項

「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

		A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項〕
		共通 必修科目	国語総合		
選択科目	国語表現	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)		(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	現代文A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	現代文B	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	古典A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	古典B			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)

※太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示す。

## ○研修

名 称: 言語活動指導者養成研修(国語力向上指導者養成研修)

主 催: 独立行政法人教員研修センター(共催: 文部科学省)

期 間: 平成26年10月15日(水)～10月17日(金)

受講者: 小・中・高等学校等の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等(定員220名)

目 的: 学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。

コース: 学校全体のアクションプラン作成コース、各教科等の学習指導計画作成コース

## ○指導事例集

名 称: 言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】

作 成: 文部科学省(平成24年6月)

内 容: 言語活動について、国語科で培った能力を基本に、全ての教科等において充実を図るために、言語活動の充実に関する基本的な考え方や言語の役割を踏まえた言語活動の充実の在り方について解説するとともに、参考となる指導事例を収録。